

消防署

火事や事故、救急の現場にかけつけ、火を消したり、
人の命を助けたりします。出動にそなえて、ふだんから、
いろいろな訓練をしています。防災活動も行っています。



消防署で はたらいっている人

消防(ポンプ)隊員

火事の通報を受けて、現場に消防車でかけつけ、消火活動をしします。
火を消したあとは、火事の原因を調べます。ふだんから訓練や道具の点検を行っています。



救助(レスキュー)隊員

火事や事故、地震などいろいろな災害が起きた時に、現場にかけつけて人の命を助けます。出動にそなえて、いつも救助の訓練にはげんでいます。



救急隊員

火事や事故などでけがをしたり、急に具合が悪くなった人を手当てしながら、救急車で病院へ運びます。救急救命士の資格を持っている隊員もいます。



通報

ここでは119番に電話をすること。
まず、火事なのか救急なのかを聞きます。

仕事の道具

空気呼吸器



火事の時、けむりの中でも息をするための道具。タンクの中に空気が入っています。

ロープ



高いところからおりる時や、動けない人を助け出す時に使います。

消防署のお仕事

消火活動——消防(ポンプ)隊の出動

119番で火事の通報があると、ただちに現場に近い消防署から消防車が出動します。消防隊員は現場に着くと、すぐに消火活動にとりかかります。放水に使う水は、消火栓(道路にある水道の栓)や池などからとります。

火事の中にとりのこされた人がいれば助け出したり、まわりの建物に火が広がるのをふせいだり



▲ 火災現場。



▲ 消火活動。

救助活動——救助(レスキュー)隊の出動

火事だけでなく、地震や洪水などの自然災害や交通事故の現場から、にげおくれた人やけがをした人などを助け出します。

がけから落ちてしまった人をロープとたんかを使って助けたり、交通事故の現場では車にとじこめられてしまった人を、工具を使ってドアをこじ



消防車といえば、放水活動をするポンプ車やはしご車が有名です。

もします。

火と向き合うとてもきけんな仕事のため、火事の現場では隊員は防火服を着て、空気呼吸器をつけ活動するなど、安全にも気をつけています。

火事や事故はいつ起こるかわかりません。そのため、消防署では隊員が、24時間いつでも出動できるように交代ではたらいしています。

▼ 交通事故が発生。



▼ 車のドアをこじ開ける。



救命活動——救急隊の出動

けが人や具合が悪くなった人を助けるため、救急車で出動します。現場に着いたら、助けがひとつような人の具合をかくにんしたり、まわりの人から状況を聞いたりして、応急処置(その場ですぐに行える手当)を行います。

たとえば、血が出ていれば止血し、ほねがおれ



▲ けが人や病人を乗せる。



▲ 救急車の車内。

ていれば固定をします。心臓がけいれんしている人には、AED(自動体外式除細動器)というきかいで電気ショックをあたえ、心臓の動きを元にもどします。こうした応急処置を行いながら、か

ん者を病院へと運びこみます。

救急車には、いろいろな医療機器が用意されています。



▼ 訓練塔。



▼ 消火訓練。



トレーニングと訓練

消防署ではたらく人たちは、さまざまな災害や事故、火事の現場でも活動ができるように、つねにトレーニングをして体をきたえています。

また、それぞれの隊では、せん門的な訓練をしています。たとえば、消防隊はホースから水を出す放水訓練や、すばやく防火服を着る防火衣着装訓練をします。救助隊はとくしゅな道具の使い方

を学んだり、山で起きた事故でも活動できるように山岳救助の訓練を行います。救急隊は、心臓マッサージやAEDのそうさが正しく、すばやく行えるように訓練しています。

こうした訓練のつまかさねが、消防署の活動をささえています。

ほうこくする文章を 書こう！

1 たしかめよう！ ほうこくする文章の組み立て

下の図のように、つたえたいことを、内ようごとに、4つの大きなまとりにわけます。

①～④について、ほうこくシートの「書く材料」



タイトル

えらんだ仕事と、見つけたくふうがわかるようにする。

① 調べた理由

えらんだ理由やきっかけを書く。

② 調べ方

使った本、見学先、インタビューを受けた人の名前を書く。

③ 調べてわかったこと

「わかったこと」と「考えたこと」を段落でわけて書く。

仕事のくふう ほうこくシート

タイトル 子どもクリニック(病院)の安心のくふう

① 調べた理由

かぜをひいた時に、近所の山科子どもクリニックに行きました。病院ですてきでやさしい、安心して長時間が過ごせました。そこで、かんきさんが安心してできるように、病院にはどんなくふうがあるのか調べました。

② 調べ方

山科子どもクリニックで、院長の山科先生に話を聞きました。

あらがで、病院のホームページや、本も見ました。

③ 調べてわかったこと

(1) 赤ちゃんの時からみられている

山科子どもクリニックでは、赤ちゃんの診察もしていて、乳幼児健診や予防接種を行っているそうです。

山科先生は、「まこと君も小さい時からこの病院に来ていたから、具合があるけども、安心して病院に来られるんじゃないかな」とおっしゃっていました。

たしかに、赤ちゃんの時から病院に行っていて、山科先生のこともよく知っているの、安心して、さんちょうせうにみてもいいなと思いました。

(2) 病気になった時の生活をアドバイス

具合が悪くなった時は、いつもと同じ生活を続けるのが一番いいことあるそうです。

具合がある時、病院にいっしょに来ていたお母さん、山科先生は「水分をしっかりとらせてください」と言っていました。

おによると、病院ではこのように「保護者が病気をうつること」もアドバイスしているそうです。お母さんはこのアドバイスを安心できたそうです。

④ まとめ

子どもクリニックでは、かんきさんが安心してできるように、さまざまなくふうをふだんから行っているのを知りました。とくに、小さいころからずっとみられていることが、自分が病気でいる安心につながっているのわかりました。お母さんや院長がいてくれるのも、きっと赤ちゃんが安心して過ごせるふうだと思いました。

書く材料を用意しよう！

● ほうこくする文章の組み立てをたしかめよう

① 調べた理由

- ・ 病院だけじゃ、安心感がある。
- ・ 具合があるからって、お母さんが、赤ちゃんに話を聞いた。
- ・ 赤ちゃんの時からみられている。

② 調べ方

- ・ 山科子どもクリニックに行った。
- ・ 山科先生とお母さん、話を聞いた。
- ・ 本やホームページを見た。

③ 調べてわかったこと

- ・ 赤ちゃんの時からみられている。
- ・ 山科先生のこともよく知っているの、さんちょうせう。
- ・ 病気になった時の生活をアドバイスしている。
- ・ アドバイスをもらってお母さんが安心して。

④ まとめ

- ・ 小さい時からみられている安心感。

● 調べてわかったこと

- ・ 山科先生のこともよく知っているの、さんちょうせう。

● まとめる

子どもクリニックでは、かんきさんが安心してできるように、さまざまなくふうをふだんから行っているのを知りました。とくに、小さいころからずっとみられていることが、自分が病気でいる安心につながっているのわかりました。お母さんや院長がいてくれるのも、きっと赤ちゃんが安心して過ごせるふうだと思いました。

さんこうにした本、
②を見学先のことにした人は、本のじょうほうをここに書く。

●書く材料を用意しよう！
短い文章で書き出す。

調べたり、見学をして、知りたかったことはわかりましたか。見つけた仕事のくふうを、ほうこくする文章に書いて、まとめてみましょう。この本の後ろにある「仕事のくふう ほうこくシート」をコピーして使いましょう。

2 ほうこくする文章を書いてみよう！

ポイント

● れいをあげて書く

その仕事のことをよく知らない人にも、つたわりやすくなります。

● 絵や写真を使う

文章だけではつたわりにくいことを助けたり、

1 調べた理由を書く

どうしてその仕事について調べてみようと思ったか。自分やうちの人がよく行くお店や施設、すきな仕事など、えらんだ理由やきっかけを書きましょう。

また、注目した「仕事のくふう」にもふれましょ

2 調べ方を書く

● 本で調べたことをもとにして書く人

「書いた人、本のタイトル、出版社、発行年」を書きましょう。本の一番後ろのページに書いてあります。

『仕事のくふう、見つけたよ』編集委員会、『②くらしをささえる 消防署、駅、図書館ほか』、汐文社、2020年

● 見学したことをもとにして書く人

見学先の名前や、インタビューを受けてくれた人・あん内をしてくれた人の名前を書きましょう。本もさんこうにした場合は、「本でも調べまし



注目させるようかがあります。

● 段落をわけよう

わかったこと(調べたこと・見たこと・聞いたこと)と、考えたことがくべつできます。

う。何について書かれた文章なのか、はっきりさせることができます。

えらんだ仕事	仕事のくふう
子どもクリニック	安心のくふう

漢字やひらがな、カタカナ、数字はそのまま書きましょう。
この本の場合は、下のように書きます。

た」「本も読みました」と書いておきましょう。そして、「仕事のくふう ほうこくシート」のさいごに本のじょうほうを書きます。